

令和4年10月12日

保護者の皆様

豊田市立前山小学校長 大野 秀幸

学習用タブレットの利用について（お願い）その2

後期が始まり、毎日の学習用タブレットの持ち帰りがスタートしました。少し難しい内容となりますが、今回は「なぜ毎日の持ち帰りが必要なのか」について、お話をしたいと思います。

（1）今、ICT機器の活用が必要な理由

昨年度、中央教育審議会から『「令和の日本型教育」の構築を目指して』という答申が出されました。この中で、急激に変化する時代にあって、子どもたちが育むべき資質・能力が定義されました。

【子供たちに育むべき資質・能力】

一人一人の児童生徒が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが必要

※こうした資質・能力を育むために、学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用が必要不可欠**であるとされました。

（2）「令和の日本型教育」における「子供の学び」の姿とは

「令和の日本型教育」では、『全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現』を目指します。この2つの「学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげます。

①「個別最適な学び」とは

子供が自己調整しながら学習を進めていく学びです。この学びは、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理できます。

指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

※これまでのように、**全員が同じ内容を同じ方法で学ぶだけではない**、ということです

②「協働的な学び」とは

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する学びです。

異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

(3)「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

＜基本的な考え方＞

- ・ 学校教育の基盤的なツールとして、**ICTは必要不可欠なもの**
- ・ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ**ていく

学校教育の質の向上に向けたICTの活用

○ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や**家庭など学校外での学びを充実**する

○特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う

※要するに、以下のようなとらえが大切

- ・ **端末の日常的な活用**
- ・ **ICTは「文房具」**
- ・ **ICTの活用と少人数学級を両輪としたきめ細やかな指導**

学校の授業においても、家庭学習においても、ICTの日常的な活用は避けては通れません。こうした時代の流れにしっかりと乗って、本校でも毎日のタブレットの持ち帰りを実施していきます。

もちろん、情報機器の正しい使用の仕方については、教員も保護者の方も心配があることでしょう。この点については、次の機会にお話ししたいと思います。

次回のお話の内容（予定）

デジタル・シティズンシップ教育について